



 Data	2022-128
監督	オリビア・ワイルド
脚本	ケイティ・シルバーマン
原案	キャリー・バン・ダイク
出演	フローレンス・ピュー／ハリ ー・スタイルズ／オリビア・ ワイルド／ジェンマ・チャン ／キキ・レイン／ニック・ク ロール／クリス・パイン

みどころ

シャルル・フーリエやロバート・オウエンの“空想的社会主義”をはじめ、ユートピアを求める人類の夢、欲望(?)は強い。しかして、本作冒頭に見る、すべての住人に完璧な生活を保障する理想郷“ビクトリー”とは?

日本国憲法は、第9条を含めて本当は少し奇妙だが、ビクトリーが定める4つのルールはもっと奇妙。ある日、「この町は、どこかへん!」と感じた若妻はどんな行動を?

巨匠ヒッチコックのスリラーは追っかけ劇が面白いが、“ユートピア・スリラー”たる本作は、理想的な町の姿とは裏腹な怖さがポイント。それを如何に演出するかが腕の見せ所だから、その成否に注目!そして、あなたは本作に設定された各種の伏線にどう回答し、ラストのド派手なカーチェイスによる脱出劇をどう評価?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ユートピア・スリラーの名作が誕生!■□■

“極限のラビリンス・スリラー”を売りにしたベルギー、デンマーク、アイルランド映画『ビバリウム』(19年)(『シネマ48』283頁)は、“ワケあり物件”に案内された若夫婦が否応なく巻き込まれる迷宮を描いた面白い映画だった。それに対して、本作冒頭に描かれるのは、米国カリフォルニア州の砂漠地帯に建設された街、ビクトリー。これは、フランク(クリス・パイン)が創設した、「すべての住人に完璧な生活を保証する」という壮大な目的を実現させたユートピアだ。

今、そんな街で住人たちと共にパーティーに興じている美女がアリス(フローレンス・ピュー)。このフローレンス・ピューは、私が見逃した『ミッドサマー』(19年)で脚光を浴びた20代の若手としては世界トップクラスの女優で、『ストーリー・オブ・マイライ

フ わたしの若草物語』(19年)『シネマ47』10頁)では、第92回アカデミー賞助演女優賞を受賞している。したがって、本作冒頭に見るダンスシーンも、愛する夫ジャック(ハリイ・スタイルズ)との大胆なベッドシーンも堂々と演じているうえ、中盤から後半、そしてクライマックスに向けて、恐怖と欲望が入り乱れる“ユートピア・スリラー”のヒロインとして見事な活躍を見せるので、それに注目!

■理想郷が定める4つのルールとは?■

時の権力から離れ、自分たちの力だけで理想郷を建設しよう。そんな活動は、シャルル・フーリエやロバート・オウエンの空想社会主義という形で現実に起きたが、その結末は?

本作冒頭に見るフランクが建設した理想郷ビクトリーには、次の4つのルールがあった。

- ① 夫は働き、妻は専業主婦でなければならない。
- ② パーティには夫婦で参加しなければならない。
- ③ 夫の仕事内容を聞いてはいけない。
- ④ 何があっても街から勝手にでてはいけない。

つまり、住人はすべて「ビクトリーの憲法」とも言うべきこのルールを承認したうえで入居しているわけだが、そのルールの成否は如何に?これは一見して男女平等に反しているうえ、そもそも、夫の仕事内容を聞いてはならないとは、一体ナニ?

もちろん、それを上回る幸せが住人全員に与えられるから、全員それを遵守しているわけだが、ある日、アリスが見た隣人、マーガレット(キキ・レイン)の姿は変。そして、ある日、アリスはマーガレットが、赤い服の男たちに連れ去られるのを目撃したから、さあ大変。ここから、アリスの周りでは頻繁に不気味な出来事が起きるようになったうえ、それを自らの力で解明しようとするアリスにはさまざまなヤバイ事態が!

■墜落する飛行機を目撃!これは現実?それとも夢?■

マーガレットからアリスに告げられたメッセージは、「この街にいてはダメ」、というもの。しかし、フランク主催のパーティに参加している夫婦は、ジャックを含めてすべてがフランクの演説に聞き惚れていた。一人一人の心の中に直接入り込んでくるような彼の演説は、まるでトランプ大統領のそれと同じ!?しかし、ある朝、キッチンに立つアリスが卵を割るのではなく握りつぶしてみると、その中身は空っぽで、黄身も白身も入っていなかったからアレレ。それは一体なぜ?

本作では、何度も朝食に出るコーヒーやトーストの姿がクローズアップで映されるが、それは一体なぜ?マーガレットのメッセージを聞いたうえ、そんな卵の体験をすると、アリスの心の中にも少しずつ「この街は何かが変わる!」と思う気持ちが生まれてくることに。それが決定的になったのは、ある日、気分転換のためバスに乗って外出したアリスの目に、飛来した飛行機が山の向こうに墜落していく姿が飛び込んできたこと。アリスはパイロットを助けるべく運転手に同行を求めたが、規則がすべての運転手はそれを拒否。そのため、アリスは1人で墜落現場に向かったが、そこではじめて街の外へ出てしまうことに。そし

て、無我夢中でたどり着いた小高い丘の頂上には、これまで見たことのない不思議な建物があり、鏡のようなガラスに顔をつけて中を覗こうとすると、頭の中に地鳴りのようなゴォーという音が鳴り響き、たちまちアリスは気を失ってしまうことに。これは一体ナニ？そこでアリスの身に起きたハプニングとは？

気が付いたアリスは自宅でジャックに介抱されていたが、一体私の身に何が起こったの？以降、アリスは度々、悪夢を見るようになったうえ、ある日、マーガレットが屋根の上で喉をかき切り、赤いつなぎの男たちに連れ去られるという恐ろしい姿を目撃することに。

■□■私が狂ってるの？それとも周りが変なの？■□■

かつて「日本の常識は世界の非常識」という言葉が流行ったが、私は個人としても弁護士としても「普通は・・・。」という言葉が大嫌い。弁護士としては、証拠に基づく事実だけが真実だということをも50年近く学び、実践してきた。しかし、個人としてさまざまな社会問題に接していると、証拠に基づかない憶測だけ、伝聞だけの話が実に多くまかり通っていることがよくわかる。

例えば、コロナをめぐる、マスク着用の必要性が叫ばれたのは当然だが、今やマスクの着用は各自の判断とされている欧米に比べると、日本人のマスク着用率は極めて（異常に？）高い。これは、右にも左にも車が全くいないのに、赤信号だから止まるのが当然と考え実践している日本人が多いのと同じで、私には全く不可解だ。これだから、日本人は戦争の時代には、鬼畜米英、一億総玉砕と叫び、戦後は一転して民主主義バンザイ、憲法9条を守れ、と揃って合唱しているわけだ。

今やさまざまな真実の姿を目撃したアリスは、この街が変なことに確信を持っていたが、ジャックをはじめ、周りの人はすべて逆。アリスの言葉を妄想だと断じ、場合によれば狂人扱いまで……。そんな中、連日にわたって奇妙な体験に苛まれ続けるアリスは、今や見ているものが、幻覚なのか現実なのかもわからなくなっていた。この街が普通でないことは確かだ。しかし探れば探るほど、自分が狂人扱いされ、窮地に立たされていく。本作中盤では、理想の街ビクトリーにおける、そんな恐ろしい姿をじっくりと。

■□■ラストの脱出劇は？アクション全開の大活躍に注目！■□■

私は近時話題になった『ミッドサマー』（19年）も『ゲットアウト』（17年）も観ていないが、同作で衝撃を受けた人には、“同じ志向性”を持った（？）本作はお薦めらしい。つまり、本作は「体験したことのない刺激を味わいたい」とか、「自分が目覚めるような衝撃的な物語を観たい」と願う人々には、絶好の内容になっているらしい。

ちなみに、理想郷たるビクトリーの中でただ一人おかしい主張を繰り返し、「頭がおかしくなったのでは？」と疑われたアリスは注射を打たれ、隔離されてしまったから万事休す。アリスが狂っているの？それともリーダーのフランク以下、町の住人すべてが狂っている

の？それは相対的な問題だから、圧倒的多数の住人が、たった一人のアリスを監禁して口を封じてしまえばそれですべてが終わってしまうのはやむを得ない。しかし、それでは映画は成り立たないから、本作最後にはアリスの奇跡の脱出劇と、それが成功していく姿が描かれることになるはずだ。そう思っていると、案の定、本作ではアリスが運転する車を中心に、圧倒的なカーアクションによる奇跡の脱出劇が描かれるので、それに注目！

今や車はすべてが EV になろうとしている上、機能一辺倒のコンパクトカーが圧倒している。しかし、かつて馬から車社会に変わろうとしていた時代のアメリカの車は、バカでかく、ガソリンをまき散らしながら走る遊び心いっぱいの乗り物だった。フランクが創設した理想郷ビクトリー内を走る車は、すべてそんな古き良き時代を思い出させる大型のクラシックカーばかりだから、その出力は抜群。それをぶっ飛ばせば、ひょっとしてフランスのリュック・ベッソン監督が描いた『TAXI』（98年）シリーズの世界観を上回るカーアクションが・・・？

そんなカーアクションを楽しみながら、アリスのビクトリーからの脱出劇をしっかり確認したい。

■□■卵の中身は？地鳴りの正体は？夫の仕事は？■□■

私は知らなかったが、近時話題になったジョーダン・ピール監督の『NOPE』（22年）を巡っては、鑑賞後のさまざまな論点についての考察が SNS 上で賑わいたらしい。それと同じように、さまざまな箇所に、さまざまな伏線を仕掛けている本作では、その意味について、SNS 上での考察が盛り上がっているらしい。本作の伏線（論点）はいろいろあるが、その代表的なものは①アリスが握りつぶした卵の意味は？②地鳴りの正体は？③夫たちの仕事は？というものだ。

本作では、スクリーン上でこれらの答えを見せないところがミソ。その謎が深まれば深まるほど、SNS 上の投稿が増えてくるのは当然だ。それはあたかも、中東の湾岸地域にあるカタールで開催されている2022年ワールドカップ（W杯）における11月23日の日本 VS ドイツ戦で日本が奇跡の勝利を挙げると、一気に森保監督の人となりを褒め称え、日本の戦術を持ち上げる議論が SNS 上で盛り上がったのと同じだ。なるほど、映画をヒットさせるにはこんなやり方もあったのか！トランプ前大統領も2024年の大統領選挙への立候補を表明した以上、本作に見る、そんな戦術をしっかり学習しなければ。

2022（令和4）年11月28日記